

<目的>

1. 思考力を高めるため  
知識や認識を得ることが出来るように  
批判的な思考力・論理的な思考の組み立てを学ぶため
2. コミュニケーション能力を養うため  
話す技能・聴く技能・建設的な対話を組み立てる技能・状況を判断し  
即応する技能を高めるため

<効用>

人の話を注意深く聞けるようになる。  
人に話すのに注意深く話せるようになる。  
社会の動きを知ることが出来る。(社会問題についてディベートすることが多いので資料を集めたり勉強しなければならないから)  
自分の意見を持てるようになる。  
物事を論理的に考えられるようになる。

<種類>

- ① 基本ルールを用いる教育的ディベート  
オックスフォード方式(伝統型)  
オレゴン方式(尋問型)
- ② 独自の方式による変則的ディベート

基本ルール

- ① 参加人数と持ち時間は平等にする
- ② テーマは肯定文にする
- ③ 肯定側の立論で始まり肯定側の反駁で終わる
- ④ 反駁では新しい論点・論拠は出せない
- ⑤ 判定は第三者がする

★立論・・・自分側の立場から議論の主旨・順序を組み立てそれを明確に述べる  
こと

★反駁・・・他人の意見に対し、その非を論じ攻撃すること  
また他より受けた非難攻撃に対して、逆に論じ返すこと

<準備>

(2)

- ① テーマ（論題）を決める。
- ② ルールを決める。（人数・時間の配分・作戦タイムの取り方など）
- ③ ディベーターを選ぶ。
- ④ ジャッジを決める（フロア全員でも可）
- ⑤ 肯定側、否定側それぞれどのように議論を展開するかフォーマットを作成し作戦を練る。

★フォーマット・・・時間の配分とディベートの組み立てについての書式

（各2名の場合の例）

- |          |         |         |    |        |
|----------|---------|---------|----|--------|
| (1) 第1立論 | 第1スピーカー | （肯定10分） | 尋問 | （否定3分） |
| (2) 第1立論 | 第1スピーカー | （否定10分） | 尋問 | （肯定3分） |
| (3) 第2立論 | 第2スピーカー | （肯定10分） | 尋問 | （否定3分） |
| (4) 第2立論 | 第2スピーカー | （否定10分） | 尋問 | （肯定3分） |
| (5) 第1反駁 | 第1スピーカー | （否定5分）  | 反駁 | （肯定5分） |
| (6) 第2反駁 | 第2スピーカー | （否定5分）  | 反駁 | （肯定5分） |

たとえば以上のような時間配分を決めルールに従って論戦を行う。

★「尋問」・・・「質問」すること。

「立論」や「反駁」はスピーチなので一方的な演説口調になるが

「尋問」は言葉のやりとりで即興性がある。ディベートの目的の一つは良いコミュニケーションをはかるということなので、言葉のやり取りや即興性も大切でありこれがオレゴン方式の特色といえる。

<テーマの選び方>

- ① 話題性のあるものや普遍的なものを選ぶ。
- ② 中心課題は一つに絞る。
- ③ 感情的表現・抽象的な表現は避ける。
- ④ どちらか一方に有利にならないようにする。

<論戦>

立論・・・肯定の立場から議論の主旨・順序を組み立て、それを明確に述べる。

尋問・・・それに対して否定の立場から質問をする。肯定側がそれに答える。

次に

立論・・・否定の立場を明確にしたスピーチを行う。

尋問・・・肯定の立場から質問をする。否定側がそれに答える。

このようにディベーターの人数により何回か立論、尋問、を繰り返したあと否定側から反駁に入り、最後は肯定側の反駁で終わる。

<注意点>

ルール違反をしないこと、例えば・・・

- ① 偏った解釈、偏見や私見を持たないこと
- ② 非礼な行為や態度をとらないこと
- ③ 証拠資料を捏造しないこと
- ④ 反駁・反論で新しい論点を出さないこと
- ⑤ 相手の議論を曲解しないこと
- ⑥ タイムオーバーしないこと

<審査（ジャッジ）のポイント>

- ① 引き分けには出来ない。甲乙つけがたい時は否定側の勝ちとする。
- ② 論題やディベーターに対して個人的感情や偏見・私見を持たないこと。
- ③ 証拠の資料は充分だったか。情報源を的確に述べたか。そこから導かれた結論は有効だったか。
- ④ 立論及び反駁は明確で妥当だったか。
- ⑤ 効果的な話し方をしたか。説得性があったか。
- ⑥ ルール違反をしなかったか。
- ⑦ チームワークは良かったか。

参考資料： ITC日本リージョンの教育資料D8  
                  ディベート 基本とバリエーション  
                  ITC日本リージョンC28  
                  ディベートのテクニック

京都クラブ第32期（常田道子）ディベート  
京都クラブ第35期（高木清子）ディベートってどんなもの？  
中島みお子著「ディベートって何？」（近代文芸社）

2015年11月20日  
京都クラブ 11月教育  
立石峯子